

TIC NEWS

vol. **113**
2014.10

(公財) とやま国際センター

〒930-0856 富山市牛島新町5-5
インテックビル4F (タワー111)

TEL (076) 444-2500

FAX (076) 444-2600

E-mail : tic@tic-toyama.or.jp

URL : <http://www.tic-toyama.or.jp>



～とやま国際塾～

今年で13回目の開催となった“とやま国際塾”。県内の高校生、海外技術研修員、留学生など約50名が参加し、夏の思い出の1ページとなりました。

とやま国際塾

開催日：平成26年7月19日～20日

場 所：呉羽青少年自然の家

2日間にわたり、県内高校生を対象とした“とやま国際塾”を開催しました。

自己紹介に始まり、人間ビンゴやグループ対抗のゲームで緊張をほぐした後は、“世界井戸端会議”と称し各国出身者と一緒に、さまざまなテーマで会話を楽しみました。

午後からは、国立大学法人富山大学国際交流センター教授のバハウ・サイモン・ピーター氏を講師に迎え、異文化理解をテーマに授業を行いました。バハウ氏の出身国であるパプア・ニューギニアや、自身が来日した当初のことなどをジョークを交えながらお話いただいた後、異文化間コミュニケーションに必要な言語以外の要素について講義していただきました。

その後はグループごとに、主に各国のジェスチャーの違い等について発表しました。数字の数え方、挨拶の仕方、自分を指すときや店員を呼ぶときのジェスチャーの違いなど、おもしろい発見がたくさんありました。

講義、発表とも英語で行われ、高校生たちにとって大きな挑戦となりましたが、英語の講義が分からないというもどかしさが、逆に英語学習に対する意欲向上につながったり、各国の留学生たちとコミュニケーションを図りながら英語で発表するという経験が、高校生たちの視野を広げ、また自信につながったりしたようでした。

夜は各国のダンス等で盛り上がりました。中国の子どもの歌遊び、韓国の踊り“カンガンスルレ”、ロシアの“小鴨の踊り”、ブラジルの踊り“クワドリーリャ”、世界的に大ヒットしたマカレナも踊りました。

2日目は、国際協力について学びました。“国際協力はって何？”というテーマで、JICA国際協力推進員の高岡さんに、JICAの事業や現在の国際協力の現状について説明していただきました。たこ焼きを例に国際協力／相互援助の仕組みを説明し、世界の問題を紐解いていくと身近な問題が見えてくること、まずは“知ること”が国際協力への第一歩となること、高校生でも国際協力に関わっていけることなどについて話していただきました。



その後、実際に青年海外協力隊としてパキスタン及びネパールで作業療法士として活動された渡邊純子氏を講師に迎え、お話しいただきました。現地で撮影した写真を使用しながら、ネパールの歴史や社会背景などに理解を深め、国際協力を通じた異文化理解の面白さや、共生・協働作業することの面白さについても語っていただきました。

今まで知らなかった国際協力や青年海外協力隊について興味を持った学生も多く、終了後はたくさんの質問が出ました。

～参加者の感想～

- ・世界に関する理解を深めるつもりが、逆に日本のことをもっと知りたいという気持ちになった
- ・自分の考えや他の人の意見を交えながら発表するグループ活動がよい勉強になった
- ・いろんな国の人と話したり、交流したりできたことがよかった
- ・語学を学ぶ意欲が高まった
- ・同世代の同じ分野に興味のある人たちと話すことが出来て、刺激になった
- ・国際協力に関する講義は興味深く、世界で困っている人のために何ができるかを考える契機となった



講師のバハウ氏

外国人のための日本語ボランティア養成講座

会場：南砺市福光公民館

日時：平成26年6月29日(日)～8月3日(日)

全5回 日曜日 10:00～12:00

会場：黒部市国際文化センター・コラーレ

日時：平成26年8月23日(土)～10月18日(土)

全5回 13:00～15:00

(第3回目講座のみ9月21日 日曜日 10:00～12:00)



この講座では、地域の日本語教室の活動を知り、ボランティアに求められているものや日本語学習支援の方法を学ぶことをねらいとしています。今年度は南砺市と黒部市で全5回ずつ実施しました。

今回は、両地域とも、現在日本語ボランティア活動をされている方が多数受講され、経験者の方からは「初心にもどって新鮮な気持ちで学ぶことができた」、「今までこれでいいのかな?と悩むこともあったが受講して気持ちが楽になった」などの声が聞かれました。また、初めて参加された方からは「日本語ボランティアとは何か知らず興味だけで参加したが、講座ではグループワークも多く、いろいろな話を聞くことができ、毎回楽しかった」、「実習で実際の教室の雰囲気はわかって良かった」、「講座が修了しても機会があれば地域の日本語教室に参加したい」という意見が多く聞かれました。

国際交流員より着任のご挨拶！

アブラム リオン さん (アメリカ)

こんにちは！ニューヨーク州から参りました、Abram Leon (アブラム・リオン) と申します。ニューヨークといっても、私の地元はニューヨーク市のような大都会ではなく、人口約3千6百人のネバーシークという小さな町です。町のある部分は州立公園で、貯水池と山があって自然の豊富なところは富山県と似ていると思います。ボストンにあるタフツ大学で心理学とスペイン語を専攻したほか、スペインの首都であるマドリッドで交換留学生として9ヶ月間勉強したことがあります。留学している時、日本人の友達ができ、日本や言語学習に興味を持ち始めました。そのため、大学4年から日本語を勉強し、卒業してから大阪で就職することができました。

大阪で3年間、英会話学校と学童保育で英語を教えながら、生涯の友人もでき、経験を重ね、素晴らしい時間を過ごさせていただきました。帰国してカンザス大学でスペイン語を教えました。いつか日本に戻り、翻訳・通約の仕事をしてみたいという希望はまだありました。今回、また素敵な機会を与えられて、国際交流員として富山へ参りました。

富山県には今回初めて来ました。食べ物も美味しく、自然も豊富なところに住ませて頂いて、本当に嬉しく思っております。着いてから2週間後、立山を登山する機会もあって、雄大な立山に登りながら、その自然に感動しました。一年を通しての富山の季節の移り変わりが楽しみです！国際交流の推進のために、精一杯頑張りたいと思っております。

富山県の生徒や住民とたくさん交流し、日本とアメリカの文化の違いと共通点を検討しながら、より深い相互理解を目指します。TICが提供するEnglish Chatも、皆さんに楽しんでいただけたらと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。



(多言語)ボランティアの養成

(日) 13:00~14:30

NPO法人多文化共生リソースセンター東海代表理事)

発生したときに、日本語が不自由な外国人住民を支援するための情報研修会をNPO法人多文化共生リソースセンター東海代表理事の土井佳彦氏が行いました。外国人住民が被災した場合に必要な情報を伝える機関のひとつ「災害時多言語支援センター」があります。研修では、災害時多言語支援センターの「通訳班、翻訳班、巡回班」を紹介した後、実際に避難所で使われた情報伝達作業を体験しました。



災害情報を翻訳する実践演習

富山の防災力アップ! ~ —外国人住民と考える—

今年度は昨年度に引き続き、富山県と連携し災害時の防災訓練事業に取り組んでいます。今年度は石川県で行いました。防災意識を高め、災害に強い富山を目指します。



支援のための防災研修、富山県総合防災訓練

支援のための防災研修 in 石川県

(土) 10:30~16:00

多文化共生センター

NPO法人多文化共生リソースセンター東海代表理事)

発生した場合、県境を越えての災害支援活動の重要性を認識し、石川県で大地震が発生したとの想定で災害時多言語支援センターの設置・運営に関する研修を実施しました。

NPO法人多文化共生リソースセンター東海代表理事 土井佳彦氏に研修班の作業体験として、石川県の地図をもとに必要な翻訳言語等を確認しました。お昼は「おにぎり」(おにぎりのみでのご飯になる)にレトルトカレーの午後からは翻訳班の作業体験として避難所に避難者へのメッセージを多言語に翻訳し、その後、避難所体験を行いました。

研修に関する知識を普段から集めておく必要があること、避難所の備えの重要性を理解した」などの意見が聞かれました。

富山県総合防災訓練

日時：平成26年9月7日(日) 9:00~12:00

場所：黒部市総合体育センター

講師：土井 佳彦氏

(NPO法人多文化共生リソースセンター東海代表理事)

「魚津断層帯を震源とするマグニチュード7.3の地震が発生し、黒部市、入善町、朝日町で震度7を観測した。多数の負傷者も発生し、道路も寸断し、混雑している」という災害想定で実施された富山県総合防災訓練の中で、災害時多言語支援センターの設置・運営の訓練を実施しました。

起震車による地震や煙の中を歩く訓練など災害時に想定されることを体験した後、NPO法人多文化共生リソースセンター東海代表理事 土井佳彦氏による訓練を研修形式で実施しました。

研修は、災害時多言語支援センターの役割についての講義、新聞記事を多言語(英語、中国語、ポルトガル語、スペイン語、ロシア語)への翻訳作業、「外国人避難者に自分の携帯電話を貸すか」などの避難所での具体的な問題を参加者全員で考えるワークショップを行って終了しました。

参加者からは、「普段から心がけていることが大切だと実感しました」などの感想が寄せられました。

JICAボランティア平成26年度秋募集が始まります！

下記の日程で「体験談&説明会」を実施します。事業概要・応募要領の説明、ボランティア経験者との交流、個別相談のほか、語学テストガイダンス（土日のみ）も開催します。（ドリンクサービス付き）

どなたでもお気軽にお越しください！高校生、大学生も大歓迎です！ ※予約・参加費は不要、時間内は出入り自由です。

募集期間：平成26年10月1日(水)～11月4日(火)

開催地	開催日	開催時間	会場
富山市	9月27日(土)	10:00～12:30	(公財)とやま国際センター 研修室A (富山市牛島新町5-5 インテックビル4階)
富山市	10月2日(木)	18:30～20:30	(公財)とやま国際センター ラウンジ (富山市牛島新町5-5 インテックビル4階)
高岡市	10月19日(日)	10:00～12:30	ウィング・ウィング高岡 研修室501 (高岡市末広町1-7)

募集ボランティア 青年海外協力隊/日系社会青年ボランティア（20歳～39歳対象）

シニア海外ボランティア/日系社会シニア海外ボランティア（40歳～69歳対象）

職種 農林水産、加工、保守操作、土木建築、保健衛生、教育文化、社会福祉、観光・商業、スポーツなど多種

【応募に関するお問い合わせ・相談窓口】

・JICA北陸・ボランティア担当 平田 電話：076-233-5931 E-mail:Hirata-Yukari@jica.go.jp

URL: <http://www.jica.go.jp/hokuriku/enterprise/volunteer/setsumeikai.html>

・国際協力推進員（富山県デスク）高岡

電話：076-444-2500 E-mail:jicadpd-desk-toyamaken@jica.go.jp



今回はカメルーン共和国から届いた青年海外協力隊員 山本 彩織 さんからの便りをご紹介します。

「カメルーンと言えば、サッカー？」赴任前は正直この程度しかイメージのなかったカメルーンが、第二の故郷のようになりつつあります。250以上の民族が存在し、砂浜、砂漠、山岳、熱帯雨林といったさまざま地形や気候の土地があること等から、「アフリカのミニチュア」と呼ばれるカメルーン。私が暮らす西部州バレングウは標高が1400mあり、年間を通して気温が低く寒いです。住民の多くは農業で生計を立てています。

私は配属先であるコミュニティ教育・開発センターのセンター長と共に、主に①収入向上(ネリカ米栽培の普及、石鹸作り)②健康(学校での衛生講座、水源整備)③教育(日本の学校との交流)の3つをキーワードに活動しています。

その中でネリカ米栽培は、昨年に引き続き今年も取り組んでいる活動です。バレングウで稲作を行うのは初めてのことで、住民の期待を感じつつも、気温の低さがネリカ米の成長にどう影響するか不安に思いながら普及活動を始めました。実際収穫に至ることができたのですが、収穫まで通常よりもかなりの時間がかかりました。しかしネリカ米栽培を通して見えたのは、稲を収穫できたことで住民の姿勢に少し変化が見られたことです。「来年は肥料を使ってみる」との声や、収穫した稲を「来年も植える用に」と家できちんと保管していた人もいました。「収穫できた」という成功体験が、住民の自信や更なるやる気を生むのだと私自身実感することができました。栽培2年目の今年は、収穫後の精米方法や種子の保管方法に関する情報提供に重点を置きながら普及活動を続けていく予定です。

2年間のボランティア活動も早いもので、徐々に終わりが見えてきました。知り合いや馴染みのお店等も増え、なにより「ゴチャムダ(村の娘)」として迎えて接してくれていることを、本当にありがたく思っています。残り少ない活動期間ですが、住民と一緒に一歩一歩確実に進んでいきたいです。



山本 彩織さん

派遣国：カメルーン共和国

職種：村落開発普及員(現コミュニティ開発)

派遣期間：平成25年1月～平成27年1月

配属先：レングウ・コミュニティ教育開発センター

羅 鎮紘 さん (L&D SYSTEM勤務)

Q. 今、どんなお仕事をされていますか？

A. プログラマーをしています。長い間ウェブデザイナーとして働きましたが、4年前デザイナーとしての自分に限界を感じ転職しました。どうしてもできない難しいプログラミングにぶつかったとき、諦めたいと思ったときもありますが、今はもう「やればできる！」というつもりで頑張っています。私は好きな仕事ならどんなに苦しくても楽しくやるタイプですので、大変な仕事でもどうにかうまく進んでいます。



Q. 近況について教えてください。

A. 8月にローマ法王が訪韓しました。5日間の旅で韓国の人々に大きな感動を与えてくれました。特に4月に起こったフェリー転覆事故の被害者の遺族への心遣いは素晴らしいものがありました。私はカトリック教信者ではないですが、できる限り弱者の力になりたいという気持ちは尊敬すべきものだと思います。

Q. 富山とはどんな結びつきがありますか？

A. 2003年6月にビジネスインターン生として来県しました。それまで富山がどこにあるかも知らなかったですが、初めての1人暮らしを海外でするということでワクワクしていました。一カ月の日本語の授業が終わって韓国語で「お疲れ様」と私に言って驚かしてくれた日本語の先生。本当は韓国語が話せるのに授業中は絶対使わないと決めていたそうです。そのほか滞在中に面倒をみて私を応援してくれた懐かしい人達。富山はそんな人が住む私の

第二の故郷です。今年7月に8年ぶりに富山に来ました。大きくなった富山駅、新しくできた環水公園などを見て時間の流れを感じましたが、富山は相変わらず大好きな人がいる愛しい町です。

Q. 最後に富山の人に一言メッセージをお願いします。

A. 美しい富山に住んでいる皆さんが羨ましいです。訪問する度に「また富山に戻ってきたい」と思います。富山で暮らした短い間、皆さんは私にとってかけがえのない温かい思い出を作ってくれ、一生忘れられないと思います。いつも応援していますので、皆さん頑張りましょう！



8月に韓国を訪れたフランシスコ法王

こんな“国際交流”やっています！

“日本語弁論大会”

NPO法人 高岡鳩の会 (高岡市)

～TICから助成した事業をご紹介します～

高岡鳩の会は、地域に密着した民間の国際交流団体として、1994年より、中国との交流活動を中心に様々な事業を行ってきました。

さる5月15日には高岡市と友好都市提携している遼寧省、錦州市内の大学で、日本語を学習する大学生を対象に“日本語スピーチコンテスト”を開催しました。コンテスト上位入賞者は11月に高岡市に招へいされることが決まっています。



アサード

アルゼンチン出身
吉田 ダニエル アルベルト さん
お薦め料理！



チミチュリ

〔パセリ
にんにく
オリーブオイル
ワインペネガー
オレガノ〕

細かく切った上記の
具材などをあえると
チミチュリソースの
できあがり！

アルゼンチンの人々にとってアサードは大切なもので、友達や家族と集まって肉をゆっくり焼き、食べて、話して、みんなで楽しめます。大切な事は良い肉を使うこと、木炭をよく燃やすことです。チミチュリというソースをかけて食べるのがアルゼンチン風です！

～作り方～

1. 始めに薪か木炭に火をつけます。よく燃えるように紙をくしゃくしゃにして置き、その上に薪か木炭をピラミッド状に並べます。その後、油を少し注いで火をつけます。
2. 木炭が良く燃えるまで、肉や野菜を準備をします。肉はなんでもいいですが油が多過ぎたら少しとります。油は焼く時に落ちますので少し油がついているくらいがいいです。肉が乾燥してしまうので塩は後でつけます。
3. 木炭の準備ができたならグリルの下に積みます。火の具合を確認するには、手をグリルの上にかざして7秒から10秒数えることができれば、ちょうどいい頃です。
4. 肉の骨の所か硬い所から先に焼きます。裏返すのは肉の上のほうが温まった時です。裏返す前に塩を少しかけます。裏返した後も表面に塩をかけます。両面が焼き上がったのでできあがりです。



TICからのお知らせ

これからの行事予定

日本海学講座

10月25日(土) 14:00～15:30
高岡市生涯学習センター研修室503
「明治時代の外国人が見た立山信仰」
講師：富山県【立山博物館】学芸課
主任 高野 靖彦氏

12月20日(土) 14:00～15:30
サンシップとやま福祉ホール
「環日本海地域の経済状況-中国東北部との関連から-」
講師：環日本海経済研究所 研究主任 朱 永浩氏

高度差4000m森里海のつながり発見事業 森里海のつながり講座

11月22日(土) 14:00～15:30
電気ビル5階中ホール
「立山をめぐる森・里・海の「こころ」文化」
講師：前富山県【立山博物館】館長 米原 寛氏

国際交流フェスティバル

11月9日(日) 10:30～17:00 富山駅前 CiCビル内
外国人カラオケ大会、ロシア語スピーチコンテスト等

外国人住民と日本語ボランティアのための防災学習

12月7日(日) 10:30～12:30
環日本海交流会館 大会議室
講師：仙台防災学習研究所 所長 古橋 信彦氏

国旗、民族衣装貸し出します！

世界各国の国旗、民族衣装、ユニセフ視聴覚教材の貸し出しを行っています。詳細はホームページをご覧ください！



(公財)とやま国際センター 創立30周年!!

今年創立30周年を迎える(公財)とやま国際センター。30周年を記念し、記念式典、記念講演を行います。皆様のご参加お待ちしております。

日時：平成26年11月29日(土) 14:00～16:15
場所：タワー111 スカイホール

【記念式典】
表彰式
とやま国際草の根交流賞

【記念講演】
“動乱の東アジア情勢と
日本の針路”

手嶋 龍一氏
(外交ジャーナリスト/作家/
慶應義塾大学大学院教授)



*参加するには事前の申込みが必要です。住所、氏名、電話番号を記入し、ハガキ、FAX又はEメールでお申込みください。

(公財)とやま国際センター賛助会員募集及び 寄付のお願い

公益財団法人とやま国際センターは、民間レベルの国際交流、国際協力を推進するため、様々な事業に取り組んでいます。TICの事業にご支援いただける賛助会員の方を募集しています。

年会費(1口) 個人会員 3,000円
団体会員 30,000円

また、財政基盤の充実を図るため、寄付についてもよろしくごお願い申し上げます。